

Amir Tsarfati 氏イスラエル、世界情勢アップデート 2017年11月30日公開

.....
エルサレムより、シャローム。アミールです。今日はお話すべきことがいくつかあります。今日お話するのは、11月29日に70周年を迎えた歴史的な宣言について、それから、最近北朝鮮が発射した大陸間弾道ミサイルについて、そして、どうしてそうなったのかについても数分お話しします。それから、アメリカ大使館がテルアビブからエルサレムに移転するかも知れない件について。それから、ヨーロッパについて、ISISについて、イスラエルがイランに送ったメッセージについて、そして、エゼキエル38章の同盟について。今回、スーダンが図に加わった事で、更に近づいています。スーダンの大統領が、統率を求めてヴラディミール・プーチンに面会に行きました。このように、今日は盛りだくさんです。音声は上手に聞こえていると良いのですが、あと1分半で始めます。どうか皆さん、「Watchman from ○○」と書いて、どこからご覧になっているか、教えてください。それから、たくさん素晴らしい方々がフェイスブックでこのミニストーリーを評価してくださっています。皆さんに神様の祝福がありますように！ただ、このミニストーリーに関して、とても素晴らしいことを書いてくださっているのに、知らずに5つ星評価のうち、1つ星をくださる方々がいて、5つ星であることをご存知ないだけなのですが、1つ星をつけるという事は、実はこのページが最悪である、と最低評価をつけていることになるのです。どれほど祝福されたかと、物凄く素晴らしいことを書いてくださって、同時に無意識のうちに、これは最悪のページだと評価していることになるので、もしフェイスブックで5段階評価をしようと思われるなら、そして、私の事を良く思ってくさっているなら、どうか1つ星ではなく、5つ星をつけてください。なぜかと言えば、Uberと同じで、1つ星をつけるという事は、ここには誰も関わらない方が良いという意味になるのです。誰もそんなつもりで1つ星をつけているのではない事は、私も分かっています。投票してくださったという事も分かっています。それでも、フェイスブックで1つ星から5つ星の間で投票する際に、もし私たちの事を良いと評価してくださっているなら、どうか5つ星をつけてください。そうでないと、1つ星は、私たちの事が気に入らない、という意味になってしまうのです。すごく面白いと思ったのが、1つ星の評価が付いていて、それなのにミニストーリーについて素晴らしいことを書いてくださっているのです。ですから、ただ評価について理解しておられないだけなのは、明白です。ただ、面白いな、と思っただけで、評価の事を個人的に受け止めてはいませんよ。ただ、凄く面白かったです。ともかく、フェイスブックが皆さんに評価する機会を与えてくれているので、もし、私たちの事が良いと思ってくさっているなら、そして、高く評価したいと思ってくさるなら、どうか1つではなく、5つ星をつけてください。1つ星をつけるという事は、私たちが全くよくないと言っているのと同じですから。

ではこの辺で止めて、まずはお祈りしてから、情勢アップデートのフェイスブックライブを始めましょう。

お父様、あなたに感謝します。あなたの御言葉を見て、世界情勢を見て、あなたが完全に支配されておられることが分かります。あなたは、あなたの民を愛されて、あなたの子どもたちにご自身の計画を明かされました。そして初めから、終わりについて、私たちに知らせてくださいました。

お父様、ありがとうございます。あなたは、私たちに臆病の霊ではなく、冷静な頭と自信を与えてくださいました。私たちの中で、良いことを始めてくださった方は、それを完成させてくださる真実な方です。

お父様、あなたを愛します。あなたは、確かにその日が近づいていることを、私たちに見えるようにしてくださいました。あなたに感謝し、あなたを祝福します。

私はエルサレムより、他の人たちはそれぞれの場所で、イエスの御名によってあなたを祝福します。アーメン。

さて、エルサレムよりシャローム、そしてこんばんは。アミール・ツアルファティです。今日は少し長くなると思います。5つの異なる事柄についてお話します。長い動画を好きな人はあまりいませんから、出来るだけ短くしようと思っていますが、今回は、興味深いものになることをお約束します。

まず、「11月29日」より始めましょう。2017年は、実に多くの記念日がありました。パルフォア宣言の100周年、ベエルシェバがアンザックの兵士たちによって解放されて100周年です。それから、宗教改革から500周年、フリーメイソンは300周年、聖地でのフランシスコ会から800周年。しかし、この全ての中でも特筆すべきは、11月29日の国連決議181号から70周年です。決議は、相手側が受け入れていないため、うわべだけに過ぎないことはもちろんですが、これは、国連の形をとった国際社会が初めて、3分の2という多数が、イスラエル国土のユダヤ人国家に賛成票を投じたのです。これは、ユダヤ人国家と、アラブ人国家の分割案への投票です。ただ、アラブ人はその投票を受け入れませんでした。ところで、これはずっと一貫して同じです。考えてみてください。今日の今日まで、アラブ人国家とユダヤ人国家、と言うと、アラブ人側が受け入れないのです。彼らの考えでは、2国とは、ユダヤ人国家とアラブ人国家ではなく、アラブ人国家と混合国家を指し、ユダヤ人国家などというものはないのです。ということで、70年前にあった事が、今でも同じだと言っておきます。しかし、すごいことに、これはユダヤ人に力と希望を与えた歴史的なことで、その直後にイスラエルは国家宣言することが可能になり、そして、宣言したのですから。国連投票は実に劇的で、もともとは11月26日に行われるはずだったものを、我々はこの議事を遅らせようとしたのです。それは、27、28日がアメリカでは感謝祭

が祝われる週末だったため、十分な票を得るための十分な時間が取れるからです。面白いことに、我々は実に多くの代表者たちに話をしたのですが、タイの代表はあちらの王子の一人で、彼はクイーンメリーに乗ってバンコクに向けて出航したため、不在者投票だったのです。興味深いですが、ハリー・トルーマン大統領がいなかったら、投票は不可能だったと思います。トルーマン大統領は、1948年5月14日のイスラエル国家建国に重要な役割を果たしただけでなく、彼は、この分割案に関して、国連のメンバー3分の2の票の裏の主導力でもあったのです。多くの人が、このユダヤ人国家とアラブ人国家への投票がどうしてそれほど歴史的なのか疑問に思っていますが、私たちはユダヤ人、アラブ人としては見ていません。そうではなく、2,000年の時を経て、世界がユダヤ人国家に投票した、という事実を見ているのです。エルサレムは与えられませんでしたし、我々のものであるはずであったガリラヤの大部分は取られました。それでも我々は、イスラエルの地で主権国家を持つ民族として世界に認められたのです。それは非常に意味のある出来事でした。そして、70年経った今、イスラエルは未だかつてなかったほどに強くなりました。我々に敵対票を投じた国は、全て後れをとっています。しかし我々は、故郷に戻りました。今日、私は一行をホロコースト記念館に案内しましたが、そこから出る際に、エゼキエル 37:14 の聖句が書かれてありました。

14 わたしがまた、わたしの霊をあなたがたのうちに入れると、あなたがたは生き返る。わたしは、あなたがたをあなたがたの地に住みつかせる。

(エゼキエル 37:14a)

世界は、私たちに属しているはずのものを与えることに賛成しませんでした。それは、どちらにせよ我々のものだという事を、世界は承認しました。興味深いことに、神はエゼキエル 37 章で言われたのです。面白いと思いませんか？我々はエゼキエル 38、39 章についていつも話していますが、これは 37 章の後に来るという事を忘れてはいけません。そして、37 章で、神はホロコーストの灰の中から、イスラエルの残りの者を集めて、私たちが我々の地に戻されたのです。興味深いのは、神がエゼキエル 37 章で言われたのです。

「主であるわたしがこれを語り、これを成し遂げる」

つまり、私がいくらトルーマン大統領を褒めたとしても、主である神が、その裏におられることを私は知っています。神が、ユダヤ人の故郷への帰還を、すべて取り仕切られたのです。そして今、私たちは故郷に戻りました。70年前に決議が起こり、今や私たちは故郷に帰還したのです。来年は何が起こるのだろうか、と思います。もし、その世代が過ぎ去るとすれば、私たちはそれまでにここを出て行くのかも知れません。神はご存知です。ということで、11月29日の記念日についてお話ししました。1947年の事でした。今は2017年、あれから70年経ったのです。

次は、ICBM、大陸間弾道ミサイルについて少しお話ししましょう。昨日、北朝鮮が発射しま

した。詳しくは2日前と昨日の夜です（書記注：日本時間11月29日午前3:18頃。青森県西方約250kmの、日本の排他的経済水域に落下）。彼らは、なぜ夜間にこれをおこなったのでしょうか？通常彼らは日中に行いますが、これまでの古いものとは違って、今回は成功の確信があったからです。そして、これによって北朝鮮が核保有国として図に加わることになりました。もし彼らが爆弾を所有していないことを期待しているなら、彼らは2か月前にはすでに水素爆弾を所有していました。アメリカの都市全体を破壊させることの出来るものです。そして今や、彼らが爆弾を所有しているだけでなく、アメリカ大陸のどこへでも、好きな場所まで到達させる能力があることも分かりました。これは興味深い事です。また、多くの人が理解していないのが、ビル・クリントン大統領が北朝鮮と始めた「元祖・罪」です。1993年のオスロ合意の歓喜の波に乗って、彼らは直ちに北朝鮮に対して動き始め、そして1994年10月18日、ビル・クリントンは金正日と歴史的な合意にこぎつけた、と全世界に発表しました。金正日は、1994年7月に亡くなったばかりの父親から王国を譲り受けたばかりでした。ちなみに、彼らは彼（金日成）が死んだとは信じていません。彼らは、彼が永遠であると信じていて、遺体を壮大な墓にまだ置いているのです。ともかく、皆さんに知っておいてほしいのは、ビル・クリントンが北朝鮮と向き合い、紙の上で合意にこぎつけたのです。ちなみに、イラン協議と全く同様で、全く何の価値もありません。この北朝鮮と合意された協議は、10年間のうちにアメリカが北朝鮮に40億ドルを与え、そしてアメリカが、平和的な目的の核電力開発において、北朝鮮を援助する、というものです。その代わりに北朝鮮は、——北朝鮮ですよ——が約束したのは、核搭載能力のある弾道ミサイル計画の凍結、そして排除。ということで、書類があり、約束があり、そして、何十億ドルというお金の流れ。聞き覚えがありますね？あるはずですが。イランとの合意と何ら変わりません。当時、彼らがそれを立証できなかったのですから、イラン協議においても、それは一切立証できません。興味深いのは、1990年代もちょうどソビエト連邦が崩壊し、世界が二度と戦争はしない、二度と血を流さない、と、ポリティカル・コレクトの悪魔がヨーロッパを占拠し、世界を占拠し、アメリカを占拠したのです。そして、これが別の形で終わるのは、避けられません。興味深いのは、北朝鮮には独自の計画があります。全く違う計画です。指導者がお金を取り、アメリカの専門家たちが与えた経験を持って、彼は、軍事的核プログラムを継続しました。ビル・クリントンはあきらめず、新たな外交的攻撃を発表して、2000年6月、マデレーン・オルブライトを北朝鮮に送りました。そして、ポリティカル・コレクトのメディアが出て行って言いました。

「マデレーン・オルブライトは、北朝鮮を魅了して、素晴らしかった！」

しかし、またしても大嘘でした。彼らは口で言うことと、実際の行動が違うのです。そして2009年、バラク・オバマが権力を握り、彼は北朝鮮からすっかり身を引いて、憑りつかれたようにイスラエル・パレスチナに関わりました。ジョン・ケリーは12回も中東を訪れ、毎日毎日ネタニヤフに話をしました。彼は我々に敵対して、アラブ側に付き、私たちが屈服しないと気づいたのです。恥ずべきことに、彼らは北朝鮮を放置して、憑りつかれたよ

うに我々に関わりました。そして、アメリカ合衆国の政権が、北朝鮮に犯したのと全く同じ過ちを繰り返し、今度はイランと行いました。あの時は、40億ドルでしたが、今度は1,500億ドルをアメリカがイランに与えたのです。クリントンが、紙を持って出て来たのと全く同じように、チェンバレンが1938年にミュンヘンでヒトラーとの用紙を持って出て来たように、バラク・オバマがイランとの協議から用紙を持って出て来ました。それも、ただの紙。何の価値もありません。そして、皆さんが見ているとおり、イランとの合意は、全てが1994年にアメリカが北朝鮮にしたのと全く同じ過ちです。北朝鮮がその後、どうなったかを見てください。彼らは、合意など全くお構いなしに、ただひたすら、自分たちのやりたい放題にしています。

「北朝鮮が攻撃すると思いますか？」

とよく聞かれますが、一つ言えることは、今の時点で彼らがやろうと思えば、それは可能です。彼らは行わない、と私が思っている唯一の理由は、今の時点で北朝鮮は、イランと違って生き残ることが目的であって、宗教のメシア的イデオロギーや、聖戦的イデオロギーによって動いているのではないからです。北朝鮮は、誰も手を出して来ないと分かっている限り、何も行いません。事実、核兵器は、彼らの保険規約です。誰もそれには触れません。だから彼らは、それに向かってまっしぐらに進んでいるのです。今や、彼らは何年もの保険を手に入れました。北朝鮮とイランの違いは、イランの動機は宗教的な聖戦が動機となっているので、彼らの目的は生き残りではなく、最終的に世を支配するという彼らのメシア、彼らのマハディの到来に、世を備えるためです。そのため、彼らは戦争を引き起こすのが自分たちの使命だと思っているのです。ですから、ビル・クリントンの過ちの結果としてある、現在の北朝鮮の核は、結果イランに核をもたらすバラク・オバマの過ちとは、まったく比べものにならないと言っておきます。どうか皆さん、理解しておいてください。現在、私たちが目にしているのは、1990年代の過ちが全ての始まりです。そして現在、ドナルド・トランプ大統領は決断を迫られています。自分は、はるばるあちらまで行くべきなのか？アメリカが攻撃される可能性は大だ。もしくは、今や、北朝鮮は核兵器を持っているのだ。だからそれを使わせないように、または、少なくとも査察させるとか、何か彼らと協議を結ぶべきか？もしくは、イスラエル人として私に言えるのは、我々は北朝鮮よりも、イランの方をもっと危惧しています。北朝鮮の欺きについて、世界は一つや二つは学習したかも知れませんが、しかしイランは、欺きの名人です。それを我々は今、目にしているのです。興味深いのは、我々が直面しているイランの核の危険性を、完全に無視したオバマ政権は、自分自身の国が他国の核プログラムによって攻撃を受ける可能性を生み出したのです。我々に関して、彼が無視したことが今、別の形になってアメリカに返って来ているのです。それは全てこの8年間に、彼が北朝鮮の追跡をすっかり止めていたからです。ですから、繰り返しますが、イスラエルの専門家たちは全員、最近の弾道ミサイル発射で、北朝鮮が地域の核保有国の一員となった事に合意しています。疑いの余地はありません。彼らが爆弾を持っていることは、我々も知っています。そして今では、彼ら

はその爆弾を、どこでも好きな場所に到達させる術を持っています。実際、北朝鮮から13,000 kmなら、文字通り地球の両側に届きますから、彼らの好きなところを狙えるのです。そこで問題は、どこか？です。面白いと思いませんか？面白いというか、皮肉というか。これまでに、北朝鮮の施設を攻撃した唯一の国は、イスラエルです。いつ？2007年9月です。シリアの砂漠の中に彼らが建設した、北朝鮮の核施設を、イスラエルが攻撃したのです。我々は、複数のF-15を使ってそこを破壊したのです。我々は最初、あの地域に司令班を送り込んで、検査用の土を集めて、そこで核活動が行われていることを確証し、それから破壊しました。北朝鮮の船がシリアの港に入り、そこへ次から次へと物資を運ぶのを目撃した、何か月も後のことです。シリアはそれを「農業用使用目的の研究所」と呼んでいましたが、——皆さん、彼らは互いに欺きあっているのです。そして、オバマ政権の8年間に、彼が北朝鮮に目を向けていなかったため、あちらで起こっていることを監視する諜報機関がおらず、現地に軍が派遣されていなかった。あちらで起こっていることを監視するためのスパイを、一人も置いていなかったのです。理解しておかなければならないのは、イスラエルは、イランであれ、シリアであれ、その他、危険の可能性があるところにはどこにでも、リアルタイムで状況を報告する人間諜報を置いています。だから我々は、こういった施設や物を、いつも世界がその存在を知る前に破壊するのです。これは、非常に重要な事です。ですから、この件についても、皆さんにお知らせしておきたかったのです。我々が現在目にしてしていることは、非常に深刻な状況なのです。多くの人が、北朝鮮がアメリカを破壊するかもしれない、と心配していますが、私は北朝鮮の核攻撃による破滅よりもむしろ、経済崩壊によるアメリカの破滅を、もっと危惧しています。それに加えて言うておきますと、イスラエルは、北朝鮮が行ったような宙を飛んでいる弾道ミサイルを破壊するための、実に高性能なシステムを開発しました。北朝鮮については、以上です。

次に、トランプ大統領がアメリカ大使館を、テルアビブからエルサレムへ移転すると、数日内に発表する、という“噂”についてお話しします。

まず、お伝えしておきますと、事の発端は1995年10月23日、アメリカの議会が「1995年エルサレム大使館法」を可決したことから始まりました。その決議とは、一般的法律で、第104米国議会によって可決され、基本的にはアメリカ大使館のテルアビブからエルサレムの移転に着手、および資金提供を目的としたものです。これが興味深いことに、この決議の第3項には次のように書かれています。

「エルサレムは、分割してはならない。エルサレムはイスラエルの首都として認識されなければならない。イスラエル国内のアメリカ大使館は、1999年5月31日までにエルサレムに創設されなければならない。」

恐らく皆さんがご存知ないでしょうが、第7項に、大統領の棄権について書かれています。

「1998年10月1日に始まり、大統領がアメリカ合衆国の国際利益が危ぶまれる可能性があ

ると決断し、前もって議会にこれを報告すれば、大統領は第3項を6ヶ月間保留することができる。」

これが、クリントン大統領、ジョージ・ブッシュ大統領、バラク・オバマ大統領によって6ヶ月ごとにきっちりと行われてきたのです。興味深いことに、トランプ大統領もまた、就任後のその棄権に調印しなければなりません。それは、状況を把握するために、彼には時間が必要だったからです。皆さんは、大使館を移動させることに伴う結果を理解しておかなければなりません。念のために言っておきますと、アラブ界全体がそれに反対します。アラブ人たちは、エルサレムの最終的な位置は、イスラエルとパレスチナの直接対話によって決定されるか、イスラエルとパレスチナの間の合意協議の一部でなければならない、と思っているのです。これに関しては、皆さんも私も知っての通り、イスラエルとパレスチナの間に平和が訪れることは、永遠にありません。今は、ない。それは何故か？それは、パレスチナはオバマに甘やかされて、どんどん要求を増大させてきて、今は新しい政権相手にとっても苦労しているのです。また、パレスチナは、ユダヤ人国家を認めるものや、エルサレムの旧市街とヨルダン渓谷がユダヤ人国家の支配下のまま残るような内容には、いかなる協議にも絶対に合意しません。だから、続けて協議を行おうと試みるだけでも、痛々しいことなのです。彼らは必ずそれを拒絶するからです。しかし、面白いのが、現在横行しているうわさ、

「トランプ大統領はきっと、大使館を動かさざるを得ないだろう。」

…まず、これはただの噂です。しかし、この背後にある目的についてお話しすれば、アメリカ合衆国内の福音派指導者たちが、1995年に可決された決議を執行するように、強い圧力をかけているのです。その理由は、

- ① それがドナルド・トランプの選挙公約だったため。
- ② イスラエルの首都が、アメリカによって認識されることで、イスラエルが必要な力を得るため

です。別の所では、ワシントンDCのユダヤ人たちが、それを推し進めています。誰もが少し恐れているのは、将来的に平和協議をまとめようとする全問題において、現在、サウジアラビアが強くなっていることで、そのために、その場に何らかのものを置いて、

「何があってもアメリカは、エルサレムがイスラエルの首都であると認識している」

と言おうとする動きがあるのです。そこで、これの問題点をお伝えしますと…

まず、私はそれに対して全面的に賛成です。言い換えれば、エルサレムがイスラエルの首都である、と私は信じていますし、さらにこれは、ずっと以前に行われているべきだった、と思っています。しかしながら、なぜ現在のタイミングが、トランプにとって問題なのか？恐らく、そのために彼はもう一度、棄権することに署名しなければならなくなるでしょう。それが今回の要点です。今の時点でトランプは、北朝鮮およびテロ前線と戦おうとしています。そして、アラブとイスラエルとの間で、協議をまとめようとしています。皆さん、理解しておかなければならないのは、それが合意されようが、否定されようが全く関係な

いのです。現在は、それはアジェンダ（議題）です。サウジアラビアや他のスンニ派諸国に対して、

「我々はエルサレムをイスラエルの首都として認めており、大使館をエルサレムに移転させる」

と伝えて、なおかつ、彼らにイスラエルを認識した積極的な行動をとったり、我々と交渉の席に着くことは期待できません。それは、アラブ人たちが受け入れられないことなのです。皆さん、理解しておかなければなりません。たとえ、サウジの皇族が全面的に賛成していたとしても、彼らはスンニ派界を代表しなければならないのです。そして、全世界で暴動が起こります。理解しなければなりません。暴動はヨーロッパ全土、全世界の ISIS のテロ攻撃という形に翻訳されるのです。そして、それが現在の ISIS にとって大きな力となるのです。

「見ろ。お前たちが我々の首都、我々の都を破壊したからだ。」

「今のアメリカ人たちの様子を見ろ。」

と。前にも言いましたが、アメリカがその一步を踏み出すなら、ムスリムの脅威が常に伴うことは間違いありません。しかし、現在の、トランプが協議をまとめるために、膨大な尽力を尽くしているまさにこの瞬間に、その動きをすることには、私は懐疑的です。もし彼がそれを行うなら、一步踏み出すなら、私からすればかなり衝撃です。物凄く驚きます。今の時点では、ですよ。彼はきっと、後に行くでしょうが、今の時点で彼がそれを行うと、私は物凄く驚きます。また、それを行えば、アラブもパレスチナ交渉の場に着かせることは、完全にできなくなります。アメリカによる、両者の間の平和交渉は、それで終わりとなるでしょう。何度も言いますが、私はあの地域に平和が訪れると信じているか？もちろん、信じていません。私はそんなことは信じていません。しかし、私が見ているのは、アメリカの政権のために、彼らの考え方からすれば、戦争の計画よりも、平和の計画を選ぶ方がいいだろう、ということです。これが、私の見解です。何があっても、ヴラジミール・プーチンは、この状況では勝者となります。何故でしょう？それは、アメリカのイスラエルに味方した“一方的な動き”をいったん目にする、全員がヴラジミール・プーチンの胸に飛び込んでいくからです。それは、危険です。皆さんが理解しなければならないのは、現在、この瞬間にイラン、ロシア、トルコが既にシリア国内で連合軍を結成しているだけでなく、今我々は、スーダンもワゴンに飛び乗って、この同盟に加わったことを目撃しているのです。スーダンのバシル大統領が——ちなみに、彼は集団虐殺の罪を問われていますが、はるばるロシアまで飛んで行ってプーチンに会い、

「アメリカの攻撃から私たちを守ってください」

と言ったのです。想像できますか？スーダンです。ということで、エゼキエル 38 章の同盟国の内、もう一つの国がこの同盟の一員であることを確証しています。これによって、リビアが最後の一国になるわけですが、現在、リビアは葛藤しています。なぜかと言えば、リビアは、アフリカからヨーロッパに入る、全不法移民の玄関口となっているからです。

リビアの仮政府は現在、ヨーロッパから資金を受け取っていますが、何の解決ももたらし
ていません。リビア政府は今、アフリカの移民をヨーロッパに奴隷として売っている、と
して、激しく非難されているのです。皆さん、私たちの所には、それを物語っている動画
があるのです。これらのことから、リビア政府がそれほど長く生き残るとは、私は思っ
ていません。ヨーロッパが彼らを長く支援できるとも思いません。ムスリムたちは、パリや
ブリュッセルで、この現代の奴隷制度に対して暴動を起こしています。ヴラジミール・プ
ーチンがその状況を利用して、リビアに彼の防衛を提案するのも、時間の問題でしょう。
そうすれば、エゼキエル 38 章の同盟が完成します。ロシアは、他の 4 つの国との同盟を完
全に支配しています。そして、ロシアが事を起こせば、どんなことであれ、彼らも参加し
ます。多くの人からメールが届いて聞かれる質問が、

「スーダンとリビアが、イスラエルに対して積極的に戦争に加わると信じているか？」
彼らの内、誰もイスラエルと国境を共にしていません。また、これに参加するために、イ
スラエルと国境を共にする必要はないのです。必要なのは、援助を送る、テロリストを送
る、武器を送る、ただ、世界のあちら側でロシアの必要を支えることです。ですから、エ
ゼキエルの預言成就に当てはまるために、ロシアがリビアやスーダンを現地に侵略させる
必要はなく、彼らが同盟、政治的に同盟に加わるだけで十分だと思います。

ということで、11月29日について、それから北朝鮮のICBM（大陸間弾道ミサイル）につ
いて、そして、大使館についてもお話ししました。

最後に、これもとても大切な事ですが、明日から12月に入ります。クリスマスと大晦日の
ある月で、ヨーロッパは非常に血生臭い月となることを覚悟しています。皆さん、ISISは
シリア、イラクで領土を失って、これらの両国の首都、モスルもラッカも失いました。ISIS
の兵士たちは、ヨーロッパに戻って、想像も出来ない形で、自分たちの損失の復讐をする
気満々です。彼らは既に、動画や脅迫を公開していて、今年の12月は非常に血生臭いもの
となる、と伝えています。

ご覧の通り、彼らには二つの活動方法があるのです。

- ① 積極的なジハード、テロ。彼らは昨年、それを行いました。ベルリンで行い、ニースや
他の場所で行いました。
- ② そしてもう一つ、静かなジハードも行っています。つまり、地域を一つ一つ占拠してい
くのです。ブリュッセルで、パリで、オランダで、ドイツで。地元警察が立ち入れなく
なっている地域が、大量にあります。

そこで何かが起これば、軍の武装車を持って来るのです。自分たちの国、自分たちの首都
に、ですよ。一人や二人を逮捕するために、まるで第二次世界大戦のようです。ところで、
こういった地域に置かれている武器の数は、軍と同等だと私たちは思っています。そして、
ヨーロッパがそんな風に覚悟しているのを、私たちは目にしているのに、——面白いのは、

例えばマクロンは、国全体の国家非常事態を継続しなかったのです。そのため、以前は国をパトロールして、シナゴグや学校を保護していた軍隊は、もはやそこにはいません。そしてそれはまさに、ISISの作業者が待ち望んでいることです。

ですから、いつでも祈る時は出来るなら、ヨーロッパにいるクリスチャンとユダヤ教徒の安全をお祈りください。来たる月（2017年12月）には、彼らは非常に大きな標的となっていますから。私の所に入って来る情報を基に、これをお伝えしているのですが、フランスのユダヤ教徒の60%が、もうヤームルカを被って外出しない、と認めています。何かされるかもしれないという恐れから、彼らは宗教を表す外見的なものを避けているのです。これが現在起こっていること、ヨーロッパと世界中でそれが起こっていますから、十分に気をつけてください。ヨーロッパ内のクリスマスマーケットが大きな標的になります。政府に、「何故彼らを守らないのか？」と問えば、彼らは、経費の問題だと言います。こういった市場を完全に防備して守るのは、物凄い経費が掛かるので、経費節約のためだ、と。自国民をテロから守るための経費をケチるような政府は、全く望ましいとは思いません。皆さん、聖書は信者である私たちに何と告げているか、理解しなければなりません。ローマ書12章には、私たちは敵を愛さなければならぬと書かれています。これは、私たちにとって最も大切なことの一つです。一個人として、私たちは自分の敵を愛さなければなりません。しかし、聖書にはローマ書13章に、政府は悪に対して戦う義務がある、

「悪を行う人には、怒りをもって報います」（ローマ13:4）と書かれています。ですから、一方では個人として、敵を愛し、敵のために祈り、もう一方で政府としては、悪を行う人に対して、怒りをもって報いるのです。ですから、どの国も、いかなる自称キリスト教国家も、キリストの「敵を愛しなさい」という言葉の後ろに隠れることは、一切できません。自国民を守ることは、それぞれ全ての政府の義務ですから。

今日、お伝えしたかったことは、以上です。何度も言いますが、私はトランプが大使館を移転させるとは見ていません。そうなれば、私は非常に驚きますが、彼が6ヶ月延期したとしても、全く驚きません。アメリカ合衆国の国家の安全と、利益を守るために必要であれば、それを棄権する術を大統領に与えている、あの決議の第7項を覚えていてください。

ところで、ほんの数時間前に、ガザからイスラエル兵に向けて、迫撃砲が撃たれました。12発の迫撃砲が落下し、イスラエルは直ちに報復しました。これは、先月イスラエルが破壊したテロトンネルに対して、イスラムのジハーディストが何らかの形で復讐しているのだと、私たちは思っています。シナイでは、現在エジプトの大統領が、エジプト軍に対して、一ヶ月以内にシナイを占拠し、テロを一掃するように命令を出しました。そして、二国間に非常に大きな協力関係が出来ています。恐らくここで言うべきではないのですが、我々はエジプトを援助しています。どのようにして戦略的にテロと戦うかを、彼らにアドバイスしたのでしょうか。彼らの知識は、全てが軍対軍の戦い方で、班もなければ設備

もなく、込み合った場所で行われる、都会でのテロと戦うための知識が、彼らにはありません。それに関しては、我々にはたくさんの経験があります。ガザからも西岸地区からも、更にはレバノン南部からも。だから喜んで、エジプトに教えます。イスラエルとヨルダン、イスラエルとエジプトの間には、素晴らしい関係が出来ています。イスラエルが問題ではなく、実際はイスラエルが解決策の一部なんだ、と地域が理解していると、私は思っています。ですから、我々の近隣諸国が私たちを滅ぼそうとする、詩篇 83 篇の空気から、次へ移ったと思っています。それは、1948 年と、1967 年にすでに起こりました。私たちの周りの第一の層は、今では私たちと平和を保っているか、もしくは解体されつつあり、今はエゼキエル 38、39 章の、我々とは国境を接していない国々、第二の層がまもなく我々に攻め込もうとしています。ということで、詩篇 83 篇はもう既に起こり、エゼキエル 38、39 章が次に起こるでしょう。そして多分、イザヤ書 17 章がこれら全てを起こすマッチとなるでしょう。

どうか、常に覚えておいてください。これら全ての混乱の中にも、私たちには希望があります。私たちには、素晴らしく、そして祝福された希望があります。これら全てのことが起こるのを目にして、私たちには走るべき競争があることを忘れてはなりません。私たちはイエスを見上げなければなりません。私たちの信仰の創始者であり、完成者です。そして、私たちはその競争を、忍耐をもって走り続けなければなりません。また、覚えておいてください。競争とは、数分や数時間で終わるものではなく、何日も、何週間も、もしかしたら何か月、何年とかかるかも知れません。しかし、私たちはゴールが見えて来ています。全ての事が、イエス・キリストの時代以来、これまでに見たこともないような、物凄い速さで動いているのを見ています。そのために、私たちにはすぐにここを出て行くという、素晴らしい希望があるのです。いろいろな人から、それは一ヶ月以内なのか、一年以内なのか、と聞かれますが、私には分かりません。私たちの誰一人として、ただ座って、日や、時間や、月を数えているべきではありません。我々がすべきことは、残されたわずかな時間で、——私たちは、主の特殊部隊です——この世において、御言葉を伝えなければなりません。私たちには、祝福された希望があります。私たちは、それを世に伝えなければなりません。出て行って、近所の人、友達、家族、子どもたちにそれを伝えるのです。彼らに、他でもない、あなたの話を伝えるのです。もし、聖書の御言葉を良く知らないなら、あなたがどのようにして救われたのか、伝えれば良いのです。そうすれば、あとは主が成し遂げてくださるのを、あなたも目にするでしょう。大胆に、恐れずに。今は恐れている時ではありません。今は、恥ずかしがっている時でもありません。今は黙っている時でもありません。今は、声を発する時です。今こそ、語る時。今こそ、出て行って御父の仕事に励む時です。皆さん、頑張りましょう。

最近、私がとても気になるのが、なぜだかわかりませんが、あまりにも多くの教会が、水

で薄めた福音を伝えていることです。

「大事なものは、良い気持ちでいること、良い行いをし、良いことを言うこと。そうすれば、全て良くなる。」

皆さんも私も、それが真実でないことは分かっています。

この数日間に、主が私の心に強く迫られたのは、キリストが、イザヤ書 53 章にあるように、「悲しみの人」であったということです。では、「悲しみの人」とは何なのか？ 全ての人の重荷を背負ったキリスト、世の罪、世の病、世の重荷、痛みを全てをご自身の上に担われたキリストが、「悲しみの人」とは、どういう意味か？ これは、キリストだけではありません。ローマ書 9:10 を読むと、パウロは嘆き悲しんで、自分がイスラエルの人々を救うことが出来たら良いのに、と言っています。ですから、皆さんの近所の人や家族に対して、皆さんの心にある重荷、彼らが信じないことへの皆さんの嘆き、悲しみは本物であり、それは、皆さんに必要なのです。それがあから、皆さんが行動に出るのです。また、それが大きな愛を、大きな情熱を生む、と私は思うのです。考えてみてください。イエスは、十字架の上で微笑んではおられません。「全てが素晴らしい」などとは言われなかったのです。彼は、主に叫ばれたのです。

「完了した。」

それから、

「彼らをお赦しください。彼らは何をしているのか分からないのです。」

そこには、本物の悲しみと痛みがありました。もし、あなたがそれを感じているとしても、何もおかしくはありません。

もちろん、「あなたがたの力を主が喜ばれる」(ネヘミヤ 8:10) のです。

もちろん、聖書は告げています。

「いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。」(ピリピ 4:4)

私たちは、自分の救いを喜びます。私たちの救いを主が喜ばれます。

しかし、救われていない世に対しては、私たちには嘆き、悲しみがあるべきです。本物の嘆き悲しみがあるべきです。迷い出た世に手を伸ばすためには、私たちにあるその嘆きから、物凄く多くの実を結ぶのです。

だから、あなたの中にその重荷を感じているのなら、自分がおかしいなどと思わないでください。実際は、物凄く真実で、物凄く正しいことなのですから。信者にとって、そのような重荷を感じるのには、真つ当な事です。皆さん全員にお伝えします。どうか、あなたの家族を諦めないでください。もしかしたら、お母さんやお父さん、兄弟、姉妹、誰かが、ずっとあなたのことを馬鹿にしてきて、全く福音を聴こうとしなかったかも知れません。今こそ、これまでになかった程、彼らのために祈る時です。彼らのためにとりなし、そして、伝えるのです。分かりませんか？ これらの世界情勢をきっかけに、彼らが考え直しているかも知れません。これらの危険や混乱、欺きや全ての事のために、もしかしたら彼らは初めて、あなたの話を聞くかも知れません。やってみなければ分かりません。預言者は、

自分の町では受け入れられない、と書かれています。誰か他の人が、彼らに語っているかも知れませんか？それによって、彼らの考えが変わっているかも知れません。

色々な人からメールが来て、

「心に物凄い重荷がのしかかっている」

と言います。それは、主がすぐにでも来られるため、そしてもう一つは、御言葉を伝える事に対してです。すごいことです。ですから、どうか皆さん、それを行動に移しましょう。ただ、その重荷を背負うだけでなく、それを行動に移しましょう。とても重要なことです。

メッセージを聴いてくださってありがとうございます。

フェイスブックで、私たちをフォローしてください。Behold Israel です。

ユーチューブもどうかチャンネル登録してください。現在6万人近くの登録がありますが、近いうちに私はフェイスブックを使えなくなっていると思っています。前にも言いましたが、実に多くのキリスト者が「フェイスブックの刑務所」に入れられている話を聞いています。どうか、ユーチューブを登録してください。

それから、ニュースレターも登録してください。Email を止めることは出来ませんから。ウェブサイト beholdisrael.org を訪れて、メールアドレスを記入し、受信したメールでそれを承認してください。毎週、ニュースレターをお送りしています。

それから、インスタグラムは beholdisrael です。フォローしてください。イスラエルツアーや、世界各地のミニストリーツアーの写真をたくさん載せています。それと、時々私の家族の写真も載せています。

ご視聴いただいて、ありがとうございます。来週か再来週にまたライブを行います。約束通り、毎週行うようにしていきます。エルサレムより、ありがとうございます。アメリカの皆さんには、素晴らしい一日になりますように。ヨーロッパの皆さんには、おやすみなさい。アジアの皆さんは、夜中なので（書記注：日本時間12月1日3:00AM）、たぶん今は観ていないと思うので、おはようございます。このメッセージは、数時間のうちにユーチューブにアップされますので、多くの人にシェアしていただけます。

ありがとうございます。God bless you! おやすみなさい。

それから、もう一度言っておきます。フェイスブックで我々を評価する時は、一つ星をつけないでください。一つ星とは、私たちは良くないという意味で、物凄い褒め言葉やコメントを入れて、それから一つ星の評価というのはありえませんから。この星の付け方を理解されていないのは、明らかですから、もしミニストリーを良く思っていてくださっているなら、5つ星をつけてください。もしくは、何もつけないでください。一つ星をつける、ということは、基本的にはこのミニストリーは良くない、と言っていることになるのです。多くの方が、ただ混乱して間違えたことは分かっています。だから、物凄い褒め言葉が並ん

だあとで、一つ星が付いているのを見ると、物凄く面白いな、と思うのです。ただシステムを理解されていなかっただけですから。

ありがとうございます。God bless you! イスラエルよりシャローム! さようなら。

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>